

あずまやの作り方

長谷川 雅 浩

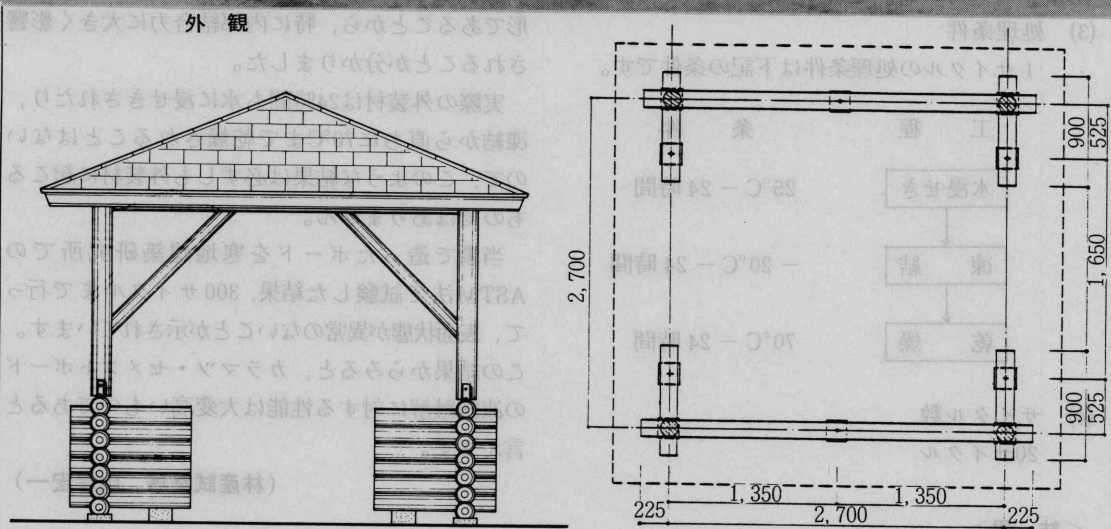
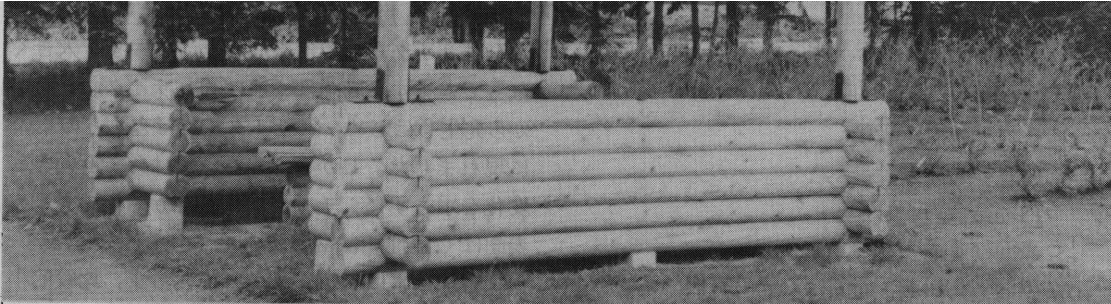


図1 立面図

図2 平面図

公園や庭にあって豊かな空間を演出してくれる”あずまや”，これを自分の手で作ってみませんか。ここでは、丸太を円柱に加工した材料を使って建てたあずまの作り方を道立林業試験場に建てた例をもとに紹介します。

材料

図3のように丸太を加工した円柱材が主な材料です。円柱材は断面が均一で曲がりやでこぼこもなく丸太に比べ大変扱いやすくなっています。

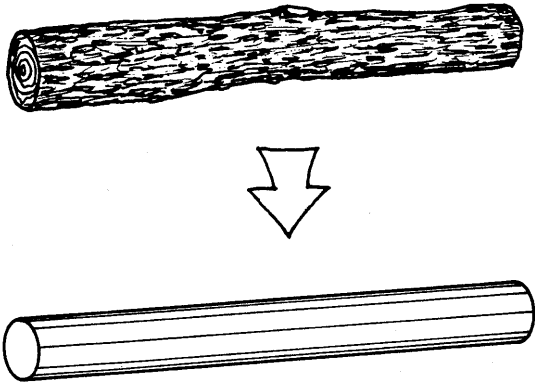


図3 丸太と円柱材

基礎

束石^{つか}を要所に埋めて基礎とします。束石からは長めのアンカーボルトが出ており、校倉^{おび}方式で組んだ腰壁を緊結します。(図4)。

腰壁

腰壁は円柱材を積み上げて作ります。上下の円柱材はきっちり密着するように重ね部分には三日月状の欠き込みをしてあります。円柱材の交差部は、図5のように互いによく重なり合うよう欠き込みをしてあります。これらの加工は、丸太から円柱材を作るときに同時に専用の機械で加工します。積み上がった円柱材は基礎から立ち上がったボルトで締めつけ一体化されます。

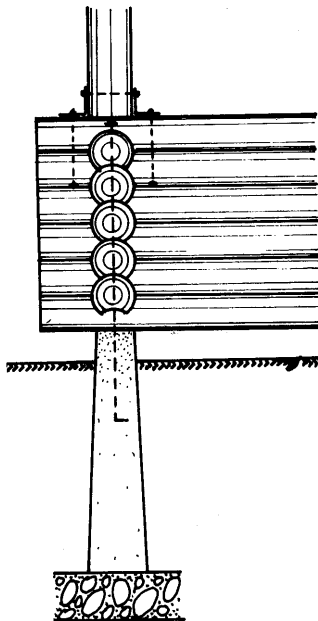


図4 基礎とアンカーボルト

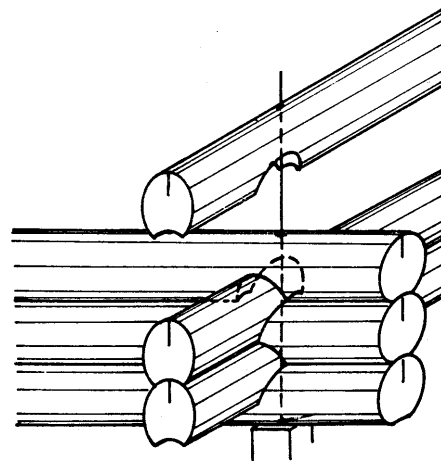


図5 腰壁の組み手

柱と桁

柱は腰壁の上に固定します。ほぞで位置を決め金物とボルトで固定します。ほぞの部分はちょうどアンカーボルトがきているのでほぞを一部欠き取りましたが、軸ボルトの位置をずらしたほうが経時変化などによる収縮をボルトで締め直すことができます(図6)。

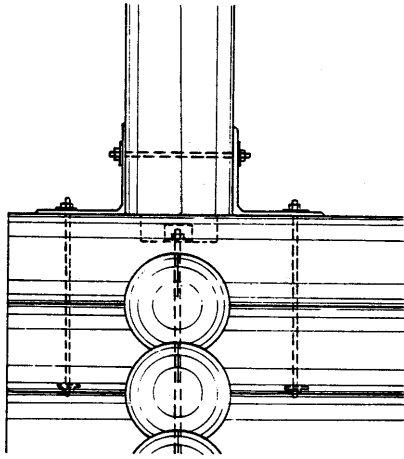


図6 柱脚部

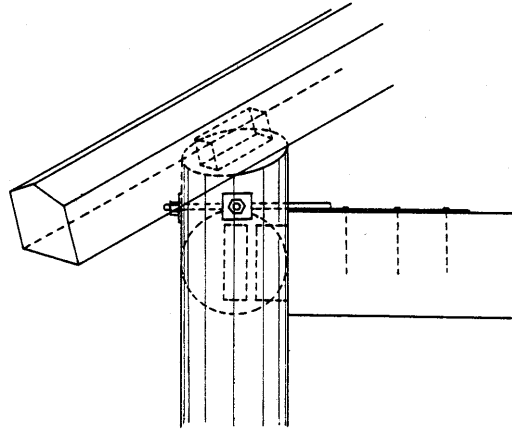


図7 柱と桁と登り梁

柱と桁は図7のように短ほぞ差しに羽子板金物で緊結します。

方杖と火打ち

柱は立てただけでは横からの力、つまり風や地震の時の力に弱いため、方杖と火打ちで柱と桁を結び補強します。接合はほぞとボルトです(図8)。

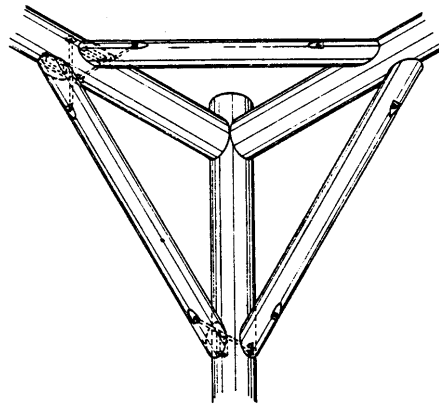


図8 方杖と火打ち

小屋組

屋根は、方形の寄棟となっていますが、その小屋組を構成するのは、四角の柱から登ってくる四本の梁です。梁は中央で一点に集まり束にかすがいで固定します。この登り梁から、桁にたる木(90×45mm)をかけ、野地板(18mm)を打って屋根下地とします(図9)。

屋根

屋根葺き材料はコロニアル葺きとしましたが、大変落ち着いたいい雰囲気を出しています。外には桫葺きなども望ましいのですが、材料も職人も探すのが困難です。カラー鉄板を使うときはつや消しの落ち着いた色のものでも葺きにするとよいでしょう。

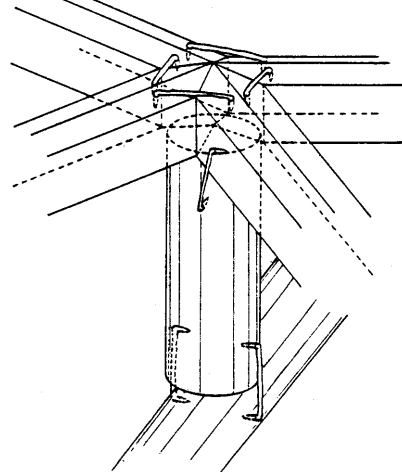


図9 寄棟の頂部

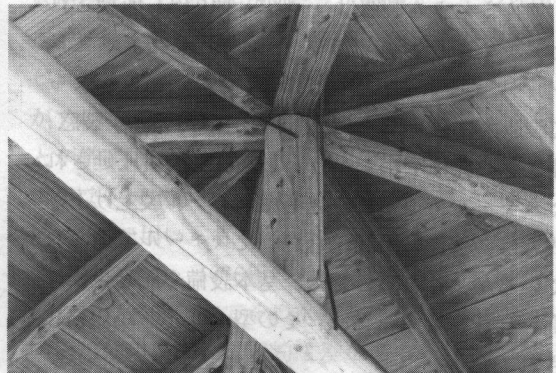


◀ 腰部と柱脚

▼ 寄棟頂部



▲ 方杖と火打ち



外観 ▶

以上、道立林業試験場に建設したあずま夏の建て方について報告しました。できるだけ簡単に造れるように計画しましたので、日曜大工で建てるのも不可能ではありません。頑張ってみてくださ

い。なお、建設についての詳しいことは、林産試験場の加工料または（社）林産技術普及協会まで御相談ください。（道立寒地建築研究所 設備研究課・前林産試験場 強度科）